

IISI メディア・リリース(仮訳)

鉄鋼業界は各国政府に対し、気候変動問題に取り組む為のグローバル・アプローチの形成に向け、鉄鋼業と連携するよう求める

- 2007年12月13日・バリ -

バリ開催のUNFCCC COP13 会合における演説で、イアン・クリスマス IISI 事務局長は各国政府代表に対し、「実質的な排出削減に繋がり、真に気候変動問題に資する排出抑制政策を志向するならば、各国政府は鉄鋼業と連携する必要がある」と訴えた。

イアン・クリスマスは次のように述べている。「数ある産業の中でも、鉄鋼業界はグローバル・ベースでの明解な提案をしようとしている。鉄鋼業は真にグローバルな競争環境下に置かれており、排出量では途上国が全体の 50%以上を占めるが、我々は共通の気候変動アプローチ採用に向けた連携のコミットメントを、既に世界中のメンバーから得ている。我々はエネルギー効率改善や CO2 排出削減を促進する政策が重要と考えており、鉄鋼業のグローバルなセクター・アプローチを取り入れた新たな排出抑制政策を要望している。」

「EU が採用しているような地域的なキャップアンドトレード政策は、CO2 排出削減に有効でない。排出面でベストな操業をしている製鉄所の生産を抑制することは、鉄鋼業のようにグローバル競争下にある産業にとって解決策とはならない。鉄鋼業にとっての有効なアプローチには、全ての主要製鉄国の参加と生産単位当りの排出改善に焦点を当てることが求められる。」

本年 10 月、ベルリンにて開催された IISI 年次総会において、理事会は鉄鋼業のグローバルなセクター・アプローチ創設に係る次段階について承認した。新たなセクター・アプローチの中核は、全ての主要製鉄国の製鉄所による CO2 排出データの収集・報告である。この情報収集は実績データに基づくベンチマーキングの改良に繋がり、ひいてはポスト京都期間における実行に向けた、国/地域ベースの報告やコミットメント設定にも繋がるであろう。IISI アプローチの主たる強みは、先進国と途上国のメンバーにより支持されている点にあり、このなかには CO2 排出量の約 50%を占める中国も含まれている。

IISI は、国/地域の CO2 総排出量よりもトン当り排出量を考慮し、CO2 排出測定に原単位ベース・アプローチを採用している。この世界的に一貫性ある測定方法により、地域間における生産面の違いを標準化した CO2 排出比較が可能となる。排出レベルの中期的な改善は先進技術の新たな適用と技術移転により、長期の実質的改善は新たなブレーク・スルー技術により果たされよう。

イアン・クリスマスは各国政府に以下の4点を求めている。

1. 各国政府は、主要製鉄国すべてが参加するセクター別枠組を採択することにより、鉄鋼業界と密接に連携してグローバル・アプローチに取り組む。
2. いかなる排出抑制政策も、効率的な製鉄会社の拡大、最も非効率な会社の淘汰を促すような施策とすべきである。
3. 各国政府は IISI と連携して、主要製鉄国すべての IISI 会員企業の製鉄所からの排出量データを計測し分析する新しい方法を採択・支援する。
4. 各国政府は、製鉄技術のさらなる発展を実現するために、鉄鋼業界と連携して、CO2 削減に向けた次世代「ブレークスルー」技術開発プログラムに投資する。

以上